

## 卸売市場の防災・減災対策【農林水産省】

### 施策概要

災害等の緊急事態であっても継続的に生鮮食料品等を供給できるよう、防災・減災対応を行うための卸売市場施設の整備を支援

### 効果

災害等の緊急事態であっても市場機能を停止させず、生鮮食料品等を供給することが可能

## 全国的な対策と効果

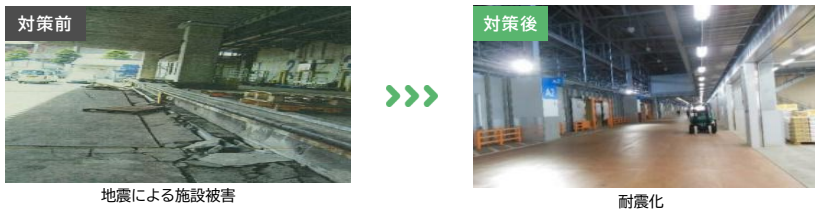
### 対策1 災害リスクがある地域からの移転

(大雨や高潮等による浸水想定地区から高台等への移転再整備を支援)



### 対策2 施設の耐震化、耐水化、耐風化対策

(施設の耐震補強、風水害を回避するための高上げ、補強等の整備を支援)



### 対策3 非常用電源施設、非常用燃料ストック施設の整備

(非常用発電機、発電機用燃料タンク等の整備を支援)

#### 防災・減災対策を実施した事例

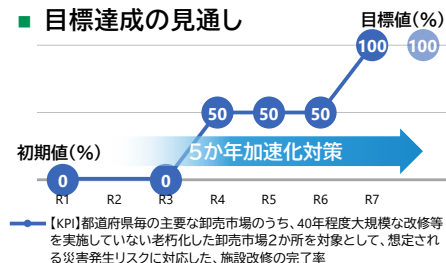
地方卸売市場(株)新印青果西部卸売市場	施設の移転、耐震化、非常用発電設備の整備
姫路市中央卸売市場	施設の移転、耐震化、敷地の高上げ、非常用電源を整備
大阪市中央卸売市場南港市場	施設の耐震化、非常用電源を整備
和歌山市中央卸売市場	施設の耐震化、受電設備を高所へ整備

## ■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
15億円	22億円	2億円
R6	R7	累計
2億円	2億円	44億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

## ■ 目標達成の見通し



## 整備事例

### 卸売市場の防災・減災設備を整備し、災害時にも生鮮食料品供給を維持する



姫路市中央卸売市場



兵庫県姫路市



災害時の食品供給の体制整備

## ■ 市場の災害対策の状況

従来の施設



施設の耐震化



非常用発電の設置により、災害時の市場機能を維持



敷地全体を盛土による高上げを行うことで津波や高潮等による浸水被害を低減



## ■ 事業費

113億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)110億円)

## ■ 事業の背景(地域の課題)

全国64の中央卸売市場の5割弱にあたる30市場(令和8年3月末現在)、全国901の地方卸売市場の約半数にあたる500市場(令和7年3月末現在)において、40年以上、移転・大規模整備を行っていないという卸売市場の老朽化を背景に、頻発する地震等の災害時においても生鮮食料品の安定供給を維持するため、流通の基幹的インフラである卸売市場に対する整備要望が高まっています。姫路市中央卸売市場においても、昭和32年に開設してから大規模な整備を行ってこず施設の老朽化が激しく災害時に対応できる十分な安全性を確保できていませんでした。

## ■ 事業の内容

卸売市場は生鮮食料品等を安定供給する重要な社会的インフラであり、姫路市場は播磨地域約180万人の供給拠点(R7年取扱高245億円)となっています。老朽化した市場を移転再整備して、建物の耐震安全性を高め、非常用電源の設置や敷地全体の盛土による高上げを行うことで、災害等の緊急事態であっても継続的に生鮮食料品等を供給できる市場となりました。

## ■ 見込まれる効果

南海トラフ地震では姫路市において震度6強、建物全壊2,000棟などの被害が想定されています。南海トラフ地震による卸売市場施設への被害を軽減することで、災害時の食料支援物資の供給拠点としての活用や、災害時における市場取引の維持を図るとともに、場内物流の効率化、品質衛生管理の高度化等の市場機能の強化により、継続的に生鮮食料品等を安定供給できる体制の確保が見込まれます。

(1)	1	人命・財産の被害最小化	激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
(2)	2	交通・ライフラインの維持	インフラの老朽化対策
(1)	3	施策のデジタル化	国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
(2)		災害関連情報の高度化	